

令和4年度 第2回 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2022年6月11日（土）9:00～12:00

参加者：14名

学生：12名

現職教員：1名

教職員：杉山、中澤、大西、阪本

■実施場所：春日山原始林

■第2回 雨の森を歩く

概要：梅雨時期の湿度の高い森の姿を、雨対策を行った上で散策します。水に濡れる木々や苔・シダ等の美しさを観察すると共に、水の流れ、河川の状況などから春日山原始林の現状についても確認します。（雨が降っていなくても実施します）

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:10 春日大社見学

9:30 水谷神社

10:00 春日山遊歩道（北部）

11:10 五感の体操・ルーペで観察

11:30 折り返し

12:00 水谷茶屋前にて振り返り

12:20 解散

■概要報告

梅雨時期の「雨の森」を体験するフィールドワーク。今回も1回生の参加が多かった。春日大社に行ったことがないという学生が多かったため、春日大社を冒頭に見学し、縁起や境内の様子について解説し、その後、春日山遊歩道へ移動した。

前回同様に、史跡の解説や、原始林を代表するイチイガシの解説、樹種の違いによる成長の違い等について、葉っぱを触ったり、木に触れたりしながら体験しながら学んでもらった。途中、雨がパラパラと降り出して来たが、夏の木々には葉が生い茂っているため、雨粒が落ちてこないことなどを伝えた。植生保護柵が見える場所では、柵の内外の違いに注目させ、原始林の現状について実感してもらった。

五感で感じるプログラムでは、途中から降り出した雨音にも注目し耳を澄ました。

ルーペを使った観察では、普段見過ごしている苔などのほか、小さな昆虫やモミの実生などを発見した。

帰り道で、ナンキンハゼが生えている場所で外来種について解説。ナンキンハゼの実生を駆除することで、斜面に固定されていた土が流されてしまう可能性もあり、保全活動で行われている「良い面」だけでなく、正解はないということを伝えた。

参加者は、普段気に留めない自然を観察することや春日山が置かれている課題について、体験を通じて考え、何ができるかを考えているようであった。

■写真



水谷神社の解説



樹種による成長の違いを考える



ギャップでの解説



ルーペを使って観察



拡大された苔